

招待講演

剣の身体知——新陰流の場合

講演者：前田英樹(立教大学現代心理学部映像身体学科教授)

司会：佐々木正人(東京大学大学院教育学研究科教授)

実演助手：新陰流・武術探求会々員

講演要旨：室町時代後期に頂点を極めた日本の剣法は、むろん一種の武技なのですが、同時に武技を否定しようとする悲願を抱いています。その技は、勝つことを活かすことに、殺すことを創ることに変えるような動きの法^りで成り立とうとしています。その理想は、稲作の暮らしを基層にした人々の生き方に根を持つもので、語りがたく高い普遍性に達しているのです。このような剣法を、新陰流の実際例を通して、いささかでも御紹介できればと思います。

講演者紹介：『沈黙するソーシャル』以来、『言語の闇をぬけて』、『小津安二郎の家』、『小林秀雄』、『セザンヌ 画家のメチエ』などの著作で、多領域の思索に大きな影響を与えている。一方、長く、新陰流の稽古会を主宰する立場にあり、関連する著作には『宮本武蔵「五輪書」の哲学』などがある。